

第37回 放送番組審議会議事録

2025年10月17日

株式会社シーエス・ワンテン

株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 2025年9月18日 木曜日 午前10時30分～12時00分

2. 開催場所 テレビ朝日本社

3. 委員の出席

委員総数 10名 出席 9名 欠席 1名

出席委員の氏名

委員長	池井 優	(慶應義塾大学名誉教授)
委員	後藤 洋平	(朝日新聞社東京本社編集局 編集委員)
委員	高木 美也子	(東京通信大学人間福祉学部教授)
委員	竹内 章子	(弁護士)
委員	戸張 捷	(株式会社ランダムアソシエイツ代表取締役)
委員	保田 隆明	(慶應義塾大学総合政策学部教授)
委員	前田 純弘	(昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員)
委員	元村 直樹	(明治大学法学部兼任講師)
委員	四本 裕子	(東京大学大学院総合文化研究科教授)
<欠席>		
委員	藤田 興彦	(学校法人和田実学園評議員)

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長

福田 泉

業務推進本部長

船越 昇

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局総合編成部長

河野 太一

コンテンツ編成局総合編成部サテライトメディア担当部長

谷 俊之

コンテンツ編成局総合編成部

泉 良樹

スポーツ局スポーツニュース部

西山 幸彦

「ワールドプロレスリング」プロデューサー

下島 裕司

ビジネスプロデュース局C S事業部長

中口 裕丈

ビジネスプロデュース局C S事業部C S編成担当部長

川北 桃子

ビジネスプロデュース局C S事業部C S戦略担当部長

深津 友裕

4. 議 題

「テレ朝チャンネル1」、「テレ朝チャンネル2」の番組について

- ・番組審議

「テレ朝チャンネル1」課題番組の審議

『OKAMOTO'S 15th Anniversary

FORTY SEVEN LIVE TOUR -RETURNS- ドキュメンタリー』

「テレ朝チャンネル2」課題番組の審議

「棚橋弘至 エースの伝説～ROAD TO FINAL～

#2 「時代を懸けた激闘と舌戦・レインメーカーと涙」

5. 審議内容

◆テレ朝チャンネル1

『OKAMOTO'S 15th Anniversary

FORTY SEVEN LIVE TOUR -RETURNS- ドキュメンタリー』番組審議◆

＜番組内容＞

OKAMOTO'S という 4 人組ロックバンドのドキュメンタリーとなっております。OKAMOTO'S は結成 15 周年を迎える、昨年 9 月からアニバーサリーツアーを開催しており、テレ朝チャンネル1では、スペシャルファイナル公演の生中継が決まっていたことから、その直前の時間で編成したのが、こちらのドキュメンタリーパン組です。

昨年活動休止されていたベースのハマ・オカモトさんが復帰されたというところで、ハマ・オカモトさんやバンド自身の不安や葛藤、47 都道府県を回るツアーへの思いを舞台裏やインタビューを通じて成長を描いたドキュメンタリーになっております。ライブとドキュメンタリー 2 つを編成し、その熱量を届けるような構成になっています。

〈委員意見〉

- OKAMOTO'S の名前の由来が岡本太郎への敬意から来ていることを知り、バンドの個性と文化的背景が魅力的に感じられた。
- ハマ・オカモトの真面目で理知的な語り口が印象的で、ファンにも新しい発見を提供できていた。
- 15 周年記念の 47 都道府県ツアーは規模の大きさとそれに対する覚悟が際立ち、また全国のファンに直接会える機会を作った点が素晴らしい。
- 番組冒頭にバンドの基本情報（結成経緯、過去の実績）を入れることで、一般視聴者にもスムーズに理解されやすくなる。
- CS 放送ならではの強みとして、地方在住のファンにもツアー最後のスペシャルファイナル公演の生中継と、そこに至るまでのドキュメンタリーを届けるという構成が非常に効果的だった。
- コアファン向けに深いインタビューや MC を長めに収録しており、熱量の高いファン層にしつかり響いていた。

〈番組担当者から〉

ご意見をいただきありがとうございます。今回のドキュメンタリーは、夢を描いていく姿やそれに対してファンがついていく姿といった、その熱量の部分は、少しは伝わったのではと感じました。

◆テレ朝チャンネル2

『棚橋弘至 エースの伝説～ROAD TO FINAL～

#2 「時代を懸けた激闘と舌戦・レインメーカーと涙」番組審議◆

<番組内容>

プロレスの特別番組に関しては、その年にあったことに関して、お亡くなりになられた方の追悼番組を含め制作しておりますが、今年度に関しては、来年1月4日に現在社長も務めております棚橋弘至選手がレスラー生活26年で引退を表明しており、その26年の歴史をテーマごとに掘り下げまして、10回に渡り制作放送しています。

棚橋弘至選手の引退は、プロレス界においても非常に大きな出来事で、また新日本プロレス一筋25年ということもあり、様々な切り口でこれからも棚橋選手の引退というものを取り上げ、しっかりと最後まで盛り上げていきたいと考えています。

〈委員意見〉

- 棚橋選手の名言を軸に本人解説や背景を見せる構成が斬新で、一般視聴者にも興味を持たせる内容になっていた。
- 試合の激しさとスタジオ対談の落ち着いた雰囲気とのコントラストが心地よく、視聴しやすかった。
- オカダ選手から見た棚橋選手や二人の関係性など、相手視点のコメントも入れると物語性がさらに深まる。
- CS放送ならではの強みとして、試合中継と選手の人間的魅力を深掘りする企画が、コアファンにも新規視聴者にも響く内容だった。
- 局アナを効果的に起用し、映像・構成・テーマのバランスが非常に良く、まさにCSらしい番組だった。
- 新日本プロレスの現状や今後（棚橋引退・オカダの海外移籍後）について、もう少し触ると背景の理解が深まる。

〈番組担当者から〉

貴重なご意見をありがとうございました。お気付きいただいたとおり、アナウンサーが棚橋弘至選手を優しく包み込む存在として、起用しているところもございました。シリーズは今後も続いていきますので、今回のご意見を参考にさせていただきます。

今までの既存のレスラーには荒っぽい言葉を使うようなイメージがあると思うのですが、そこを棚橋弘至選手は一人でイメージを変えた存在です。本当に言葉を大切にしているレスラーだなということを、我々もいつも接して感じています。マイクアピールの際も時代の流れに沿ったところを敏感に察知して、感じ取って、言葉に紡いでいるというような選手だと思っており、こういった企画が非常にぴったりだなと考え制作しました。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日
2025年10月以降に、ホームページに審議会概要を掲載とともに、放送番組としても公表する予定です。

9. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は2026年3月に開催予定。

以上